

実用的な暗号の形式的証明に向けて： アセンブリでの多倍長整数アルゴリズムの形式的検証

アフェルト レナルド

ソフトウェアセキュリティ研究チーム

セキュリティのための最も厳密な検証手法

形式的検証とは? → 国際規格(コモンクライテリアなど)による最も厳密なセキュリティレベル:

1. ソフトウェアの実装の正しさの機械検証
2. 第三者による全自動検査可能な証明の発行

暗号とは? → セキュリティプロトコルの基本的な部分:

- 数論による情報処理
- 高い効率を要求
- ◆ 先端アルゴリズム
- ◆ 低レベル実装

代表的な暗号: RSAやElGamalなど

証明理論に基づくコンピュータ上での検証

定理証明器とは? 証明理論に基づく開発環境:

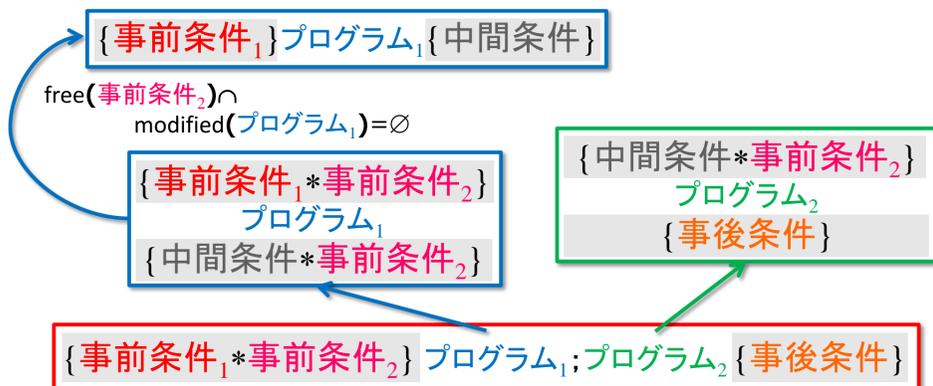
- 型理論に基づくプログラミング
 - 一階述語論理などによる自動検証
 - 高階述語論理(帰納法など)による推論
 - ◆ 型付き高階ラムダ計算の証明オブジェクト
- 機械検証
第三者による全自動検査可

代表的な定理証明器: Coq (<http://www.lix.polytechnique.fr/coq/>)

我々の貢献

アセンブリでの整数論アルゴリズムの検証ライブラリ:

- Smartcard向けのアセンブリ (SmartMIPS, MIPS Technologies)
- 低レベルデータ構造の扱い
 - ◆ 文字型やポインターや多倍長整数など
- ホーア論理による証明の構成
 - ◆ その論理自体の健全性の機械検証など
 - ◆ 分離論理による形式的証明の組み合わせ:



- 実用的な暗号関数の実装とその形式的証明
- 形式的検証済みの翻訳など

参考文献

- R. Affeldt, D. Nowak, and K. Yamada, *Certifying Assembly with Formal Cryptographic Proofs: the Case of BBS*, 投稿中
- R. Affeldt, *A Library for Formal Verification of Low-level Programs*, <http://staff.aist.go.jp/reynald.affeldt/coqdev/>
- アフェルト レナルド, 「Coq上での組み込み用途の冪剰余の検証」, PPL2009
- R. Affeldt and N. Marti, *An Approach to Formal Verification of Arithmetic Functions in Assembly*, ASIAN 2006
- J.C. Reynolds, *Separation Logic: A Logic for Shared Mutable Data Structures*, LICS 2002

応用例:

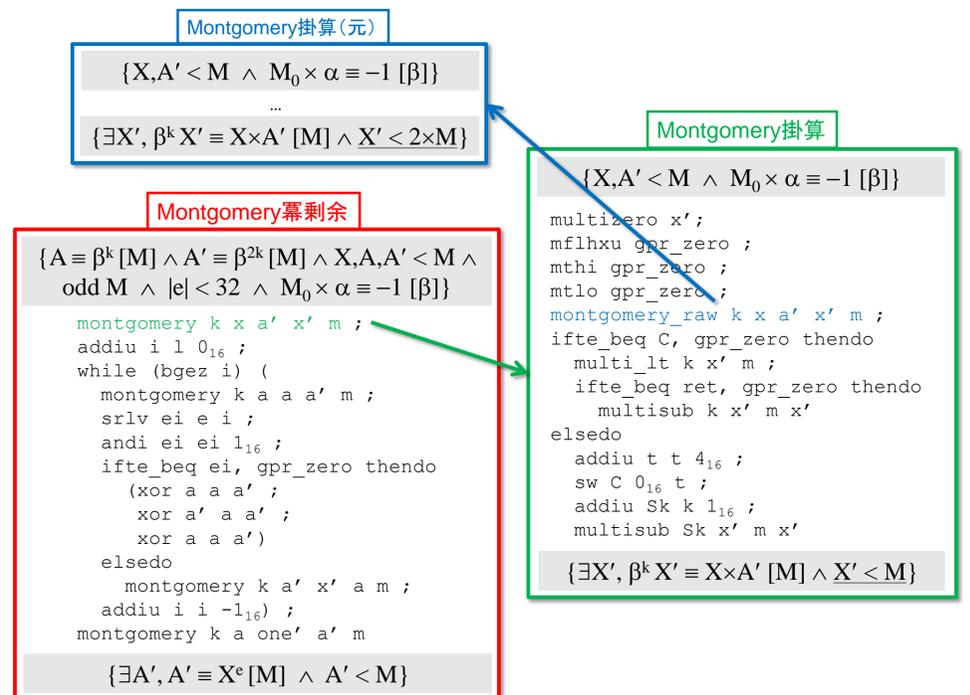
効率的なアセンブリでの冪剰余の形式的検証

プログラムの規模:

アセンブリ関数	命令数*
Montgomery冪剰余	100
冪乗ループ	13
Montgomery掛算	87
Montgomery掛算(元)	36
多倍長引算	20
その他(多倍長比較, 初期化)	17

*nopでない命令, 繰り返し呼び出しのインラインなし

形式的証明の組み合わせによる形式的検証:



実験結果の一覧

多倍長関数	仕様(略術)	形式的証明行数	
		合計	事前・事後条件だけ
多倍長足算	$C := A + B, B := A + B$	240	77
多倍長引算	$C := A - B, B := A - B, A := A - B$	472	166
多倍長掛算	$C := A \times B$	570	213
Montgomery掛算(元)	$Z := X \times Y [M], Z := X^2 [M] (Z < 2M)$	1239	468
初期化	$A := 0$	137	25
多倍長比較	$A < B$	422	96
Montgomery掛算	$Z := X \times Y [M], Z := X^2 [M] (Z < M)$	474	183
Montgomery冪剰余	$Z := X^e [M]$	616	233
BBS疑似乱数生成器	$Z := X^2 [M] \& 1 \parallel X^4 [M] \& 1 \parallel \dots$	843	298

形式的検証済みのSmartMIPSでの多倍長関数

今後の課題

- 大規模のプログラムの形式的検証に向けて拡張
- 高レベルプログラミング言語との形式的なインターフェイス
- PKCS#1に対するRSAの実装の形式的検証

メール先: reynald.affeldt@aist.go.jp; 平成21年5月12日

実用的な暗号の形式的証明に向けて: アセンブリでの多倍長整数アルゴリズムの 形式的検証

アフェルト レナルド

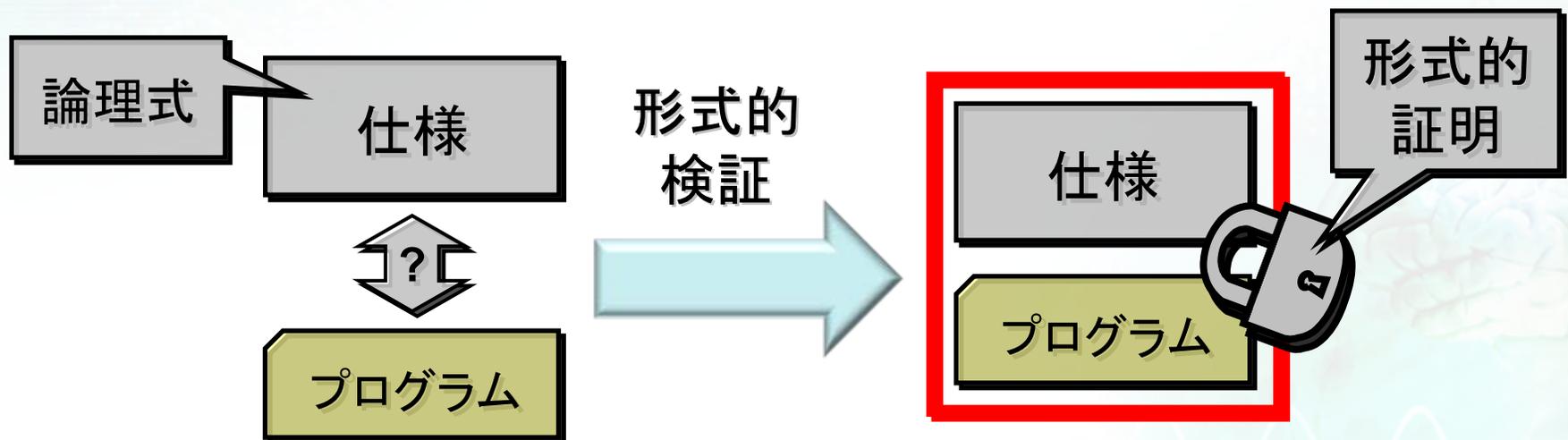
情報セキュリティ研究センター (RCIS)
ソフトウェアセキュリティ研究チーム

実用的な暗号の実装の 形式的証明

- 最終目的: **高信頼**な安全性の証明
 - 暗号はセキュリティプロトコルの基本的な部分
 - ⇒ 暗号の実装の誤りで安全性が破れる
- しかし, 実用的な暗号の実装の検証は**困難**
 - 整数論による情報処理, 高い効率を要求
 - ⇒ 先端アルゴリズム, 低レベル実装
 - 特に, 組込みシステム(Smartcardなど)

形式的検証とは？

- 国際規格(コモンクライテリアなど)における最も厳密なセキュリティレベル:
 - ソフトウェアの実装の正しさの機械検証
 - 第三者による全自動検査可能な証明の発行



- アセンブリ言語での整数論アルゴリズムの形式的検証を提供する
 - Coq定理証明器の上でのライブラリの開発
 - 低レベルデータ構造の扱いや
 - ホーア論理による証明の構成などの形式化
 - 実用的な暗号関数の実装とその形式的証明
 - 例: 多倍長足し算など, Montgomery掛算, 疑似乱数生成器
 - 本ポスターではMontgomery冪剰余を細かく取り上げる
 - インターネット上で公開:
<http://staff.aist.go.jp/reynald.affeldt/coqdev/>